

## ～補足資料～

### ■<フルヤのウインターキャラメル>復活までの道のり

<フルヤのウインターキャラメル>復活までの道のりは決して平坦なものではございませんでした。さかのぼること 2010 年冬、ショコラティエ マサール創業者の古谷勝が外部委託製造により再販にこぎつけました。当時勝は新聞の取材に対し「創業家の一人としてフルヤ本来の味を残したい」「私にとって原点のような商品」と語っております。

しかし再販後まもなく、委託先の会社の倒産により継続的な再販の道は閉ざされてしまったのです。それから 5 年。勝は志半ばで他界してしまいました。

その後マサールを継承した私、古谷健の心の中にも、いつしか「ウインターキャラメルを復刻させたい」という使命感が宿っていることに気がつきました。

当初は先代同様、外部の委託製造先を探しましたが、製造ロットが折り合わなかったり、試作品に満足できずなかなか前に進めません。何度か諦めかけましたが、「ひょっとしてこれは自分自身の力で再現なさい。」というご先祖様や先代からのメッセージなのかもしれないと考えるようになりました。

そこで自社開発に切り替えることに致しました。まず、取り組んだのは当時の材料表をもとに現在手に入る材料を探すことからです。何しろ 40 年以上も前の材料表。現在は流通していないものも多々あり、代替品を探すだけで数ヶ月を要しました。何とか材料は集められたものの、その後何度も何度も試作と失敗を繰り返しました。そもそも材料表は残っていたものの、製造工程に関する資料がまったくありません。砂糖や水あめ、バターを火にかけるタイミングもわからず、キャラメルの状態を見極め火を止めるタイミングなどの経験値もありません。私自身、小学生当時の味覚の記憶をたどりたどりの試行錯誤の連続でした。



途方に暮れる中、一筋の光を与えてくれたのは古谷製菓 OB、OGの皆さんでした。

たまたま私が<ウインターキャラメル>復刻に取り組んでいるということ、地元新聞や TV 局が報道してくれたことをきっかけに、すでに90代を迎える古谷製菓 OB、OG の皆さんがマサールまで応援に来てくれたのです。

古谷製菓倒産時には一方ならぬご苦勞をお掛けした皆さんが、その一族の末裔である私からの相談にも関わらず、快く懐かしい工場風景や当時の人間模様を私たちに語ってくれました。

また、その後我々が相談でお持ちする試作品に対して、「色が違う!」「固い!」などなど往年の工場長さながらの叱咤激励と<ウインターキャラメル>製造のノウハウをご指導頂きました。

こうして紆余曲折、多くの皆様のご協力で何とか形になった復刻<フルヤのウインターキャラメル>。

「古谷製菓が製造していたものと全く同じものか?」と問われれば「全く同じ」とはお答えできません。

しかし今私たちができる精一杯を傾け、ショコラティエ マサールの礎を築いてくださった先人たちへの敬意、道民の皆さんが子供のころポケットに忍ばせたウインターキャラメルとの甘い記憶に心から思いを馳せたことは誓うことができます。

この一粒が北海道民の古き良き時代の記憶を手繰り寄せる一粒になり、明日に向かう若々しい活力を取り戻す一粒になれるとしたらこれに勝る喜びはございません。

すべての北海道民に感謝を込めて。

ショコラティエ マサール  
二代目代表 古谷 健